

「陰圧閉鎖療法」取り入れ

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 98 》

県立中央病院は形成外科を中心に、傷口を特殊な材料で覆って密閉し、吸引によって陰圧状態にする「陰圧閉鎖療法」を取り入れている。傷が治りやすい環境を整えて治癒を促す。

同科の酒巻美保副部長によると、この治療法は洗浄や壊死組織の除去などをしてきれいにした傷口に医療用のスポンジを当て、その上から透明なシールで密閉。シールの一部に開けられた穴から専用の吸引器で傷口に陰圧をかける。すると空気とともに浸出液が吸



酒巻美保
形成外科副部長

傷口の環境整え治癒促す

引され、適度な湿潤状態を得ることができ、傷が治るための環境が整えられる。さらに吸引による傷口の収縮作用も得られる。

傷口は乾燥させすぎても、湿潤させすぎても治りが遅くなるという。

この療法の適用は、皮下に達する深い傷で、感染がなく、傷口に壊死組織がないもの。さらに比較的大きく、難治性のものが対象となる。

患者は入院をしながら、最長4週間の治療を受ける。週に数回、スポンジやシールを交換し、洗浄しながら傷の治り具合を見て治療期間を決めていく。

メリットは、治療により傷口が小さくなれば、皮膚を含めた組織の移植など大きな手術を避けられる場合があるほか、傷口の処置で必要なガーゼ交換の回数などが少なくなるという。

酒巻副部長は「患者にとっても医療者にとってもメリットのある効果的な治療法。しっかりと適用を見極めて活用したい」と話している。Ⅱ第4木曜日に掲載します

陰圧閉鎖療法の仕組みを示したイラスト（ケーシアアイ株式会社提供）

